

中国語の「欧化」に見られる日本語の要素 ——“与幼小者”（有島武郎原作）の翻訳を通して

北京外国語大学博士後期課程 薛桂譚

一

五四期の白話文運動を経て、中国語書面語が文言文から白話文へと大きく変貌した。「言文一致」を目標とする白話文の形成と発展にあずかって、その中に力のあった要素として、旧白話の伝統、文言要素の吸収、又は西洋言語からの影響がよく上げられる。特に「西学東漸」という大きな流れの中で、中国語の近代的变化についてはその誘因は西洋言語との接触に帰し、「現代中国語の欧化語法」という名の下で考察が行われてきた。正式な「欧化」研究は王力（1943）から始まり、その後謝耀基（1990）、賀陽（2008）、朱一凡（2011）などがあり、ずっと注目を集めている。

しかし、多くの中国語研究者は「欧化」現象を論じる時に、近代日本語からの影響が軽んじられている。近代の文化交流史から見れば、これは明らかに問題があり、「欧州—日本—中国語」のルートが無視され、或いは日本語借用語という語彙現象に完全に目を奪われ、語法、文体における日本語からの影響はあまり研究されていないのは事実である。20世紀に入り、日本語書籍の漢訳は非常に盛んで、其数多くの翻訳活動を通して日本語が中国語の近代化に与えた影響は如何なるものか、もっと明らかにする必要があると思う。

本文の考察対象とする魯迅訳“与幼小者”は1923年6月刊の『現代日本語小説集』中に収められており、その原作は日本有島武郎の「小さき者へ」である。この短編小説は1918年（大正7年）1月、『新潮』（第28巻第一号）誌上に掲載したものである。“与幼小者”は終始忠実にして科学的な直訳法—硬訳を旨とした魯迅訳の代表的なものである。日本語底本と照合し、「欧化語法現象」と比較しながら、その言語特徴に見られる日本語要素を分析し、中国語近代化における日本語からの影響を実証するというのは本文の研究目的である。

二

まず訳語から見れば外形訳語として“悲剧—悲劇、決心—決心、养分—養分、紧张—緊張、肉欲—肉欲、感想—感想、想象—想像、体验—體驗、极端—極端、思想—思想、可能性—可能性”のように清末に既に借用語として中国語に吸収された近代漢語もあれば、“退院—退院、病院—病院、薄暗—薄暗い、绵云—綿雲、粉雪—粉雪、牛乳—牛乳、书斋—書齋、未熟—未熟、葬式—葬式、安堵—安堵、弹丸—彈丸、征候—徵候、热意—熱意、病热—病熱、绝顶—絕頂、热病—熱病、杀到—殺到、无能力—無能力、万年笔—萬年筆、原稿紙—原稿紙、自动车—自動車、看护妇—看護婦、结核症—結核症”のように日本語をそのまま中国語に移す例も数多くある。さらに“神经过敏—神經の過敏、换句话说—言葉を換えていえば、对于—に対して”のように表現を少し変えて中国語に取り入れられた例もある。

語彙面において日本語が中国語に大きな影響を与えたのは事実であるが、本文は「語法」に焦点を当てて考察するため、以下は先行研究によく論じられている「欧化語法現象」を“与幼小者”の実例を挙げながら、具体的に分析していく。

1. 連体修飾節の長文化と複雑化

(1) 我的周围的人们是只知道将我当作一个小心的、鲁钝的、不能做事的、可怜的男人。
/私の周囲のものは私を一個の小心な、魯鈍な、仕事の出来ない、憐れむべき男と見る外を知らなかった。

(2) 幼小者呵，将不幸而又幸福的你们的父母的祝福带在胸中，上人世的行旅去。
/小さき者よ。不幸なそして同時に幸福なお前たちの父と母との祝福を胸にしまって人の世の旅に登れ。

(3) 然而我想，有怎样的深爱你们的人，现在这世上或曾在这世上的一个事实，于你们却永远是必要的。
/然しながらお前たちをどんなに深く愛したものがこの世にいるか、或いはいたかという事実は永久にお前たちに必要なものだと思ふのだ。

(4) 我一住在那里，便来做事的一个勤恳的门徒的老姬，在那里照应病室。
/私がその町に住まい始めた頃働いていた克明な門徒の婆さんが病室の世話をしていた。

(5) 但将来诊的两个医生异口同声的说有结核的征候的时节，我只是无端的变了青苍。
/診察に来てくれた二人の医師が口を揃えて、結核の徴候があるといった時には、私は唯訳もなく青くなってしまう。

(6) 也没有比看见你们活泼的向我说过早上的套语，于是跑到母亲的照相前面，快活的叫道『亲娘，早上好？』的时候，更是猛烈的穿透我的心底里的时候了。
/またお前たちが元氣よく私に朝の挨拶をしてから、母上の写真の前に駈けて行って、「ママちゃん御機嫌よう」と快活に叫ぶ瞬間ほど、私の心の底までぐざと抉り通す瞬間はない。

王力(1984:348-349)、謝耀基(1990:84)、朱一凡(2011:149)において、典型的な欧化現象の一つとして、修飾語の複雑化、文の長文化を挙げている。本来中国語において“定語”(連体修飾語)になれるのは単一の語で、短かったが、20世紀に入り、連体修飾節がどんどん長くなり、構造も複雑になってきた。例えば例(1)(2)の“～的～的”のように語連続で修飾構造として働く場合もあり、(3)～(6)のように一つの文あるいは複文(“包孕句”)が連体修飾になれる例もある。例(6)のように40字ぐらいの長さを持つ連体修飾節もある。また連体修飾節だけでなく、連用修飾節も同じ傾向があり、構造が複雑になり、長文化している。

(7) 要之，你们是见之惨然的人生的萌芽呵。无论哭着，无论笑着，无论高兴，无论凄凉，
看守着你们的父亲的心，总是异常的伤痛。
/何しろお前たちは見るに痛ましい人生の芽生えだ。泣くにつけ、笑うにつけ、面白がるにつけ淋しがるにつけ、お前たちを見守る父の心は痛ましく傷つく。

言語形態から言えば、日本語の用言や助動詞の多くは形態変化があり、その連体形・連用形を利用し、いくつかの文節、語連続が並列し、あるいはまとまった文で連体修飾節や連用修飾節として働くことができるのである。このような日本語長文が中国語に直訳されるとき、中国語文も長くなり、複雑化になってきた。

2. 修飾語+人称代名詞

(8) 为你们之父的我，那时怎样的映在你们眼里，这是无从推测的。
/お前たちの父なる私がその時お前たちにどう映るか、それは想像も出来ない事だ。

(9) 对于那娃儿脾气的野心，那时的我是只用了轻度的嘲笑的心来看，但现在一想，是无论如何，总不能单以一笑置之。
/その少女じみた野心をその時の私は軽い皮肉の心で観ていたが、今から思うとただ笑い捨ててしまうことはどうしても出来ない。

(10) 待到调查完毕，正要就寝的十一时前后的时候，已经成了神经过敏的你们，便做了夜梦之类，惊慌着醒来了。
/仕事をすまして寝付こうとする十一時前後になると、神経の過敏になったお前たちは、夢などを見ておびえながら眼をさますのだった。

20 世紀に入る前に中国語では「人称代名詞に修飾語句はつけられない」が原則だったが、現在中国語の中では「修飾語＋人称代名詞」構造が数多く存在している。その由來說が主に三つあり、中国語固有の構造（王東明 2000）、英語からの影響（謝耀基 1990 : 85 ; 賀陽 2008 : 84）、日本語由来の構造（王力 1984 : 485）。まだ定説がないが、例（8）－（10）からわかるように、日本語からの影響も十分考えられる。また賀陽（2008 : 85－86）で挙げた例文の多くは日本留学経験のある近代中国作家たちの作品の中の例で、例えば魯迅・郭沫若・郁達夫・夏衍など、日本語の要素も無視できない。

3. 用言・体言間の品詞転換

（11）换句话说，就是我锐敏的看透了自己的魯鈍，大胆的认得了自己的小心，用劳役来体验自己的无能力。

言葉を換えていえば、私は鋭敏に自分の魯鈍を見貫き、大胆に自分の小心を認め、労役して自分の無能力を体験した。

（2）当你们看着这篇文章，悯笑我的思想的未熟而且顽固之间，我以为我们的爱，倘不温暖你们，慰藉，勉励你们，使你们的心中，尝着人生的可能性，是决不可至于的。/お前たちがこの書き物を読んで、私の思想の未熟で頑固なのを嗤う間にも、私たちの愛はお前たちを暖め、慰め、励まし、人生の可能性をお前たちの心に味覚させずにおかないとっ私は思っている。

賀陽（2008 : 41）、馬春華（2016 : 116）で欧化現象として取り上げ、中国語は形態変化を持たない言語で、英語などの印欧言語のような動詞・形容詞を名詞に転換させる語法手段（-ity, -ness, -ing）がないため、五四前後大量な印欧作品を翻訳するとき、西洋言語の行為名詞を動詞・形容詞そのままの形式で対応するしかできなかった。それゆえに、中国語でもともと体言性成分しか当てられなかった構文位置（主語・目的語）にも用言が現れ、用言・体言の間に、品詞の境があいまいになり、“動名兼類”現象が多くなってきた。

しかしこのような欧化現象に、日本語からの影響が無視できない。日本語においては漢語動詞・形容動詞がもっと自由に名詞に転換することができるのである。動詞なら語尾の動詞マーカ「スル」を、形容動詞なら語尾の形容詞マーカ「ダ」を取り除けば、名詞として自由に使える。中国語も同じ漢語を使うため、翻訳の時例（11）（12）のように漢字をそのまま保留すれば、用言・体言の品詞転換ができる。

3. 受身文の発展

（13）我被袭于凄怆之情，不由的低了眼。/私は凄惨な感じに打たれて思わず眼を伏せてしまった。

（14）你们在去年，永久的失掉了一个的，只有一个的亲娘。你们是生来不久，便被夺去了生命上最重要的养分了。/お前たちは去年一人の、たった一人のママを永久に失ってしまった。お前たちは生まれると間もなく、生命に一番大事な養分を失われてしまったのだ。

（15）一到停着自动车的处所，你们之中正在热病的善后的一个，因为不能站，被使女背负着，/自動車のいる所に来ると、お前たちの中熱病の予後にある一人は、足の立たないために下女に背負われて、

王力（1984 : 353－354）、謝耀基（1990 : 95）；賀陽（2008 : 226－252）において“被字句”の使用比率の増長と意味変化を欧化現象として挙げている。本来中国語の中で“被字句”は不幸・喜ばしくないなどマイナスな意味を表す時しか使われなかったが、欧化以降中性的・プラス的な意味としても使われるようになった。また近代中国語の“被”字句の変化は例（13）のような自発的な用法が生じ、（14）のような“被＋VP＋NP”構造が増えることにも現れている。明治以降の日本語の受け身文は感情的な意味制限も厳しくなく、自発的な用法もあり、また「なる」言語と呼ばれる日本語は自然と受け身の文が多く見られ

るため、20 世紀前半大量な日本語作品が翻訳されたとき、中国語への影響も考えられるのではないかと思う。

4. 進行形“着”の拡大

(16) 分明知道着，而 U 氏却靠了祈祷，为维持老母和两个孩子的生活起见，奋然的竭力的劳作。/それを知りながら U 氏は御祈祷を頼みにして、老母と二人の子供との生活を続けるために、勇ましく飽くまで働いた。

(17) 我在那时节，心里面有着太多的问题。/私はその頃心の中に色々な問題をあり余る程持っていた。

王力 (1984: 356)、賀陽 (2008: 182-185) において欧化現象もともと中国語は“意合”言語で、語句の文法関係と文法意味は外部標識に頼らず、語義、論理関係と文脈で判断していたが、印欧或いは日本語のような“形合”言語つまり形態あるいは形式標識重視の言語の影響で、外部文法形式標識の使用が著しく増えた。例えば“着”もその一つである。進行形を表す“着”の使用も以前より多くなり、本来動作行為の後にしか接続できなかったが、“知道”“有”などの状態動詞の後にもつけるようになった。特に“有着”文は 20 世紀二三十年代の日本文学のシャワーを浴びた近代中国作家たちの作品に多く見られるようになり、日本語の影響が十分考えられる。

5. 挿入法の使用の変化

(18) 穿好了未必再穿——而实际竟没有穿——的衣服，走出屋来的母亲，在内外的母亲们的眼里，潜然的痛哭了。/二度とは着ないと思われる——そして実際着なかった——晴着を着て座を立った母上は内外の母親の眼の前でさめざめと泣き崩れた。

(19) 你们长大起来，养育到了一个成人的时候——那时候，你们的爸爸可还活着，那固然是说不定的事——想来总有展开了父亲的遗书来看的机会的罢。/お前たちが大きくなって、一人前の人間に育ち上った時、——その時までお前たちのパパは生きているかいなか、それは分らない事だが——父の書き残したものを繰り広げて見る機会があるだろうと思う。

朱一凡 (2011: 167) 英語の影響でできた新しい文法構造の一つとして、“挿入語”を出している。新しい句読点（——）の使用により、本来中国語で実現できなかった挿入語句も使われるようになった。例 (18) のように語・連語だけでなく、例 (19) のように文或いは複文まで挿入語になれる。魯迅訳文では日本語原作の挿入形式をそのまま保留し、挿入される注釈的・修飾的あるいは補充的な語または節・句によって文の意味をもっとはつきりし、正確に・厳密に表すにことが出来る。また文学作品の中において、感情的な色彩も増やすことができる。

三

以上は先行研究で取り上げられている 5 つの欧化語法現象について、中国語の訳文と日本語の原文を照合しながら、「欧化」という名の下に日本語の要素もあるのではないかと分析してみた。しかし、この課題をもっと深めるためには、欧化言語現象の源をさらに早期中国語に追究しなければならない。欧化現象の考察範囲を五四以降の白話文文学作品に絞るのではなく、五四以前の翻訳言語、特に清末民初の文言文訳本にまで広がる必要があるのではない。即ち「欧化」は「白話」だけの現象ではなく、「欧化文言」の研究価値も軽んじられない。19 世紀の末から 20 世紀初めの頃、日本語書籍の漢訳は英語書籍の漢訳よりずっと盛んな時期に、語彙面にとどまらず、語法・文体における日本語からの影響も十分探るのはこれからの研究課題である。

参考文献：

1. 陈力卫. 汉语欧化过程中的日语因素[J]. 文汇报第 W03 版, 2018. 1. 5
2. 贺阳. 现代汉语欧化语法现象研究[M]. 北京: 商务印书馆, 2008 年
3. 马春华. 汉语欧化结构的立体考察[M]. 郑州: 中州古籍出版社, 2016 年
4. 沈国威. 现代汉语“欧化语法现象”中的日语因素问题[J]. 東アジア文化交渉研究別冊, 141-150 页, 2011. 3
5. 宋生泉. 文言翻译与“五四”新体白话的生成[J]. 文学评论, 2019 年第 2 期
6. 王东明. 人称代词受别类词修饰古已有之[J]. 西安外国语学院学报, 2000 年第 1 期
7. 王克非. 近代翻译对汉语的影响[J]. 外语教学与研究 (语文双月刊), 2002. 11
8. 王力. 中国现代语法, [M]. 北京: 商务印书馆, 1985 年版 (1943 年首次出版)
9. 朱一凡. 翻译与现代汉语的变迁: 1905-1936[M]. 北京: 外语教学与研究出版社, 2011 年